

WATER STAND

WATER STAND

ウォータースタンドレポート 2021

今日よりもっと、清んだミライへ



ウォータースタンド株式会社
埼玉県さいたま市大宮区桜木町 4-463
[お問合せ先]0120-032-114 [企業情報サイト]<https://waterstand.co.jp> [サービスサイト]<https://waterstand.jp>



FSC® 森林認証紙、ノンVOCインキ（石油系溶剤0%）など印刷資材と製造工程が環境に配慮されたグリーンプリンティング認定工場にて、再生可能エネルギー100%で印刷。印刷会社が所有する施設や車両、購入した電力などScorp1、2、3すべてをオフセット済みの「CO₂ゼロ印刷」で印刷しています。



[企業情報サイト]



[サービスサイト]

MISSION

ウォータースタンドは
未来の世代のために
より良い地球環境を引き継ぎます。

わたしたちは、2030年までに
日本の使い捨てプラスチックボトルを
30億本減らします。



Corporate Message

今日よりもっと、 す 清んだミライへ



1969年の創業以来、お客様の未来をより良いものにするという志の下、私たちは変化し続けて参りました。水道直結ウォーターサーバー「ウォータースタンド」をコア事業に据えた今、お客様、地域社会とより良い未来を共に創ることを事業の目的としています。

「ボトルフリープロジェクト」は弊社の使い捨てプラスチックボトルを減らすことから始めました。未曾有の気候危機・環境問題に対する私たちの最初の一步でした。

今日の延長線上に2030年があり、その先に今を生きる私たちの誰も見ることのない未来があります。世代を超えてより良い地球環境を引き継ぐために、今日をどのように暮らすのか、私たちはより多くの方と対話し、一歩ずつ前進して参ります。

ウォータースタンド株式会社
代表取締役

本多 均

WATER STAND



VISION

ウォータースタンドは
マイボトルを携帯する
新しい文化を創り
気候変動とプラスチックによる
環境問題に取り組みます。



ウォータースタンド(株)のコア事業は
水道直結ウォーターサーバー「ウォーター
スタンド」のレンタルです。

弊社は、「ウォータースタンド」の清んだ
お水がご利用頂く方の健康を支え、プラ
スチック資源循環や気候変動といった社
会課題解決に貢献することを希求し、
2021年、コーポレートメッセージを策定
しました。



生活に寄り添い、給水する人の「ウォータースタンド」となるために

日本国内で出荷されるプラスチックボトルは約250億本に上ります。2019年にスタートした「ボトルフリープロジェクト」は、何度も使える水筒やタンブラーの携帯を呼び掛け、「飲む」行為をサステナブルなものにする取り組みです。外出先でリユース可能な容器への給水ができるよう、地方公共団体などと協働し給水設備を地域に拡大しています。

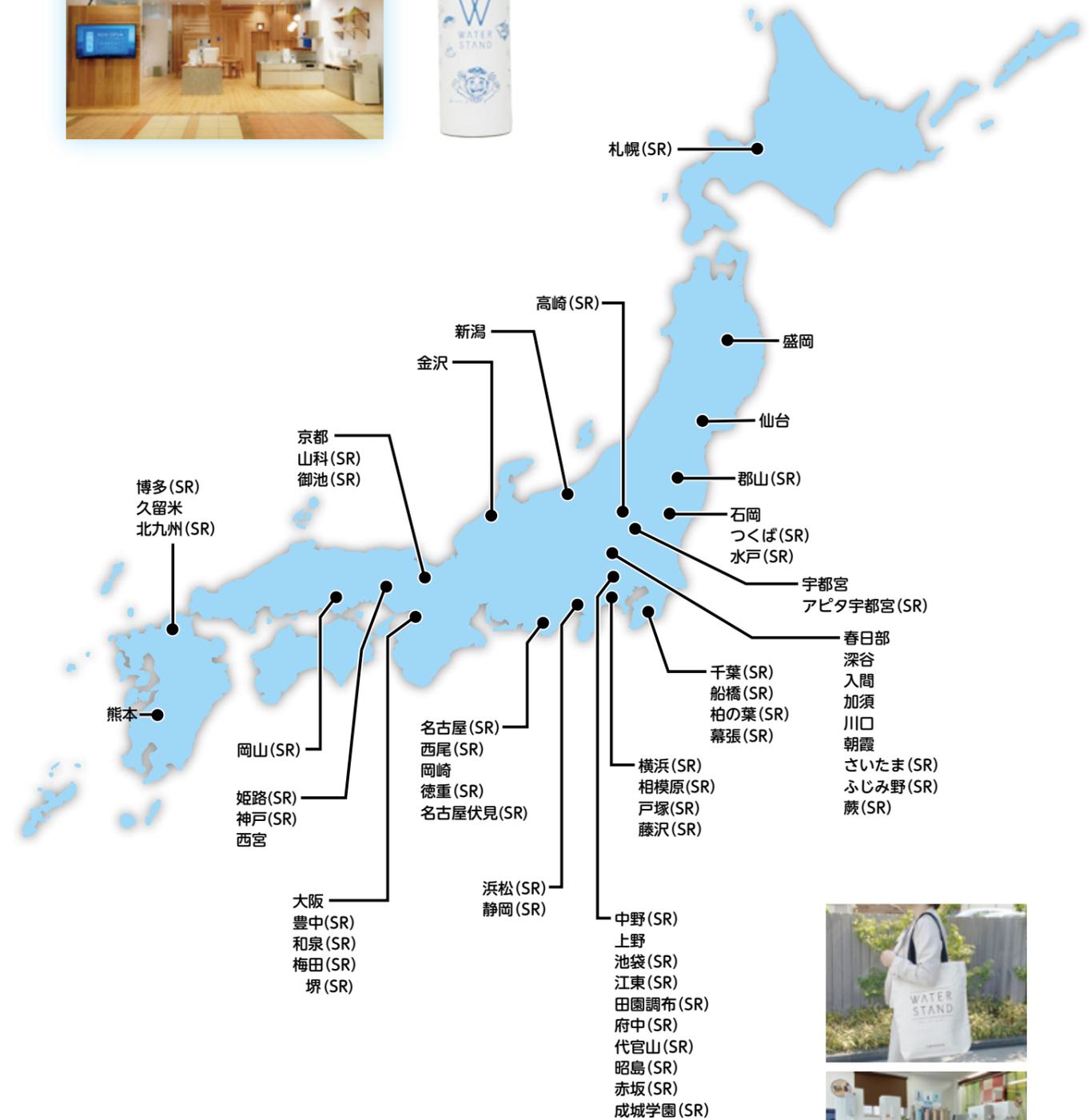
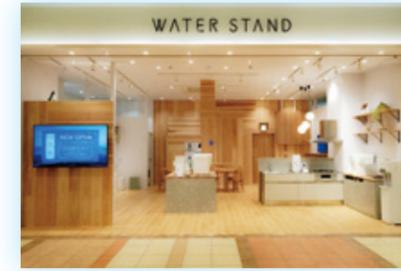
2021年からは、公立小・中学校に設置する「ウォータースタンド」で環境問題を取り上げたパネルを掲示しています。お水の品質を保つため、半年に1回各「ウォータースタンド」のメンテナンスに伺いますが、その際に新しい情報に更新していきます。

CO₂削減やプラスチック循環など気候変動への対策が喫緊の課題となるなか「ボトルフリープロジェクト」の拠点として、

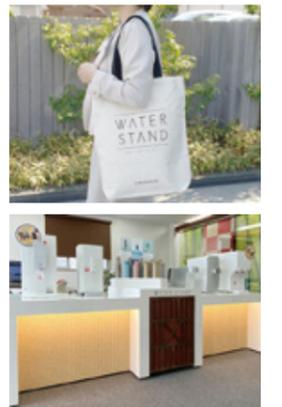
2021年9月末までに全国に62か所の営業所を開設しました。2018年に「ウォータースタンド」事業を通じて気候変動や環境問題に取り組むことを決意し、全国に営業網を拡大して以降、地域密着型の事業運営を推進して参りました。弊社のみでカバーできない地域については、弊社の想いに共感頂いた代理店様と一緒に事業を展開しています。

水は生活にとって欠かせないものであり、水分補給による熱中症の回避は気候変動への適応策としても有効です。今後は、教育機関だけでなく「ウォータースタンド」から給水頂く際に地球環境の現状を共有するための仕度も展開する予定です。「ウォータースタンド」が給水する人にとってなくてはならない存在となり、より良い行動に向けた対話と行動のきっかけとなることを目指して参ります。

「ボトルフリープロジェクト」の拠点を全国に拡大



2021年9月末時点
※短期開設ショールームを除く
(SR):ショールーム



Our Voice

柏の葉ショールーム
橋本 万里

地域に密着しお客様に向き合うショールームは、マイボトルに給水する大きなムーブメントの起点です。スタッフが弊社の取り組みの目的を共有できるよう人材育成に力を入れています。

横浜営業所
折原 賀一

マイボトルへの給水を環境負荷軽減という観点で再定義し、お客様と共有しています。スタッフ全員がお客様とのつながりを大切に、生き生きと仕事ができる職場づくりを心がけています。

中野営業所
植園 隼人

ウォータースタンドを導入して頂くことが、お客様の組織の意識や行動を変えるきっかけになるよう働きかけています。継続的にお客様と関係性を構築していけることに感謝しています。

赤坂営業所
松倉 幸江

今後、子どもたちの世代が直面する環境の変化を考えると他人事ではありません。日々の業務が地球の未来につながっているという意識は、業務にあたる上で大きなやりがいになっています。

パートナーシップによって実現する 「ボトルフリープロジェクト」

ウォータースタンド(株)は、「最も大切なステークホルダーは未来の世代である」と考えています。健やかな地球を未来の世代に引き継ぐために、多くのパートナーに「ボトルフリープロジェクト」P2への参加を呼び掛けています。



弊社は、プラスチックと賢く付き合っていくための環境省の活動「プラスチック・スマート」に参加しています。

2021年6月期

使い捨てプラスチックボトル
7,426万本削減

二酸化炭素排出抑制量
7,805t-CO₂削減

算出根拠 P19



地域一体で
取り組む

全国に
プロジェクトの
輪を広げる

誰もが
参加できる

進化し続ける
インフラ

健やかな生活は安全で安心な地域インフラによって実現します。
ウォータースタンドは全国の地方公共団体と連携し、社会課題解決に貢献します。

環境問題への取り組みは一つの地域だけで完結するものではありません。
ウォータースタンドは活動範囲を全国に広げ、国内全体でプロジェクト進捗状況を共有します。

使い捨てプラスチックボトルを減らす取り組みの第1歩は、マイボトルを携帯すること。ウォータースタンドは自らが実践した取り組みを広げ、具体的でポジティブな行動を呼び掛けます。

多くの人とのパートナーシップを進めていくために電気を使用しない常温水のみタイプをご用意するなど、当プロジェクトを支える「ウォータースタンド」には多様なタイプの商品をご用意しています。

特別
対談

今日よりもっと、清んだミライへ ～未来を変えていくきっかけづくり～



ドキュメンタリー映画
「マイクロプラスチック・ストーリー」監督
佐竹 敦子様

1966年埼玉県生まれ。単身渡米、ニューヨークで17年間、映画、コマーシャル、テレビ番組などの制作プロデューサーに携わる。2010年から映像作家として環境教育のドキュメンタリー制作を開始。

現在、ニューヨークを拠点とするNPO団体カフェテリアカルチャーにてメディアプロデューサーをつとめながら、合衆国環境保護庁やニューヨーク市教育委員会と公立の小中学校にて環境教育を行っている。

ウォータースタンド株式会社
代表取締役
本多 均

1954年東京都生まれ。77年中央大学文学部卒業。大学卒業後は東京証券に入社。翌年、赤木屋証券に移り、史上最年少の23歳で投資アドバイザーとなる。その後、代議士秘書などを経てジャスト(現ウォータースタンド(株))に入社。91年より現職。

本業を通じた社会課題解決として2030年までにプラスチックボトル30億本削減を目指す「ボトルフリープロジェクト」に取り組んでいる。

ドキュメンタリー映画 「マイクロプラスチック・ストーリー ～ぼくらが作る2050年～」とは



ニューヨーク、ブルックリンの5年生たちが世界的な注目を集めるプラスチック汚染問題を学び、彼らの視点でこの問題の根幹が何かを問いただし、解決に向かって自分たちのコミュニティからアクションを広げて行くまでの2年間を追った長編ドキュメンタリー。

ライフスタイルの移り変わり

佐竹 私が小さい頃、6歳ぐらいの時に近所にスーパーマーケットができました。お肉とお魚が売っているところにアイスクリームも売っていて感動した覚えがあります。当時はまだプラスチック製のレジ袋はなく、母は買い物かごを持って行っていました。

そのあと紙袋になり、それからプラスチック製のレジ袋になったんです。みんながそうやってレジ袋になっていったとき、「買い物かごを持って歩いているのは時代に遅れているようで恥ずかしいと思う時期があった」と母が言っていました。

本多 私の子ども時代はもう少し前ですね。買い物かごを持っていくのは当たり前で、しょうゆにしてもお酒にしても瓶を持って行って、樽から量り売りで入れてもらっていました。豆腐も鍋を持って行って、そこに豆腐一丁を入れて帰っていました。

今はあらゆるものがプラスチックでパッケージされていますが、当時はプラスチックだけでなくゴミは出なかったですね。

カバンの中に入れてるのは面倒くさいので持ち歩かない。「ウォータースタンド」を街の中に設置すればみんなが水筒を持ち、そうすればペットボトルを買わない。自動販売機もいらなくなって、ゴミやエネルギーも削減されるのではないかと考えています。

2050年の地球

本多 3年ほど前、ウミガメの鼻にプラスチックストローが刺さっているのをテレビで見たことがきっかけでマイクロプラスチックの存在を初めて知りました。プラスチックが海に浮遊し、紫外線の影響で微細なプラスチックになると。

衝撃的だったのは“2050年までに海洋中のプラスチックの重量が魚の重量を超える”という予測です。それがどういった状態なのか想像できませんでした。

佐竹 450グラムの魚とレジ袋60枚分が同じくらいです。映画にも、水槽の1匹の魚と60枚の袋が同じ重さだという場面があります。



「マイクロプラスチック・ストーリー」より

2050年までに海洋中のプラスチックの重量が魚の重量を超えるという予測

1本のボトルから始まる“気づき”

本多 年間に出荷されるボトル入り飲料約250億本を一人当たり換算すると、約200本になることも知りました。**P18**

私たちはプラスチックストローを減らすことはできませんし、レジ袋を減らすこともできません。そうしたとき、社員が水筒を持ち歩けばプラスチックボトルを減らせるかもしれないと言ったんですね。試しに水筒を数百本購入して

アメリカから見た日本

佐竹 日本に帰国すると自動販売機がどこにでもあることに衝撃を受けます。アメリカでは空港などでも必ず水筒に給水できるサーバーがあって困らないんです。次はどこで汲めるかっていうのを大体想像できるんですが、日本ではまだ汲めるところが少ないと感じます。給水アプリなどもあります。

私はお店に入って「すみません、水を汲んでもらえませんか」と言いますが普通の人は言わないんじゃないかと思います。今、映画の日本語の吹き替え版制作中*でオーディションに応募してもらったアンバサダーの子どもたちに「外出先で持ってきた水筒が空になったら佐竹監督はどうしてるんですか」と訊かれたので「お店に入って水を汲んでくれませんかって言ったら大体OKって言われるよ」って言ったらみんなびっくりしてね。日本でももっとサーバーが増えると良いと思います。

*取材時は2021年8月

本多 そうですね。日本人の2/3は水筒を持っていると言われています。ただ“持ち歩かない”。外出先で飲み切ってしまうと、単なる重いものを



社員みんなに配って、私自身も1本持ちました。

自分たちがテストして、社外の皆さんからも共感を得て、社会課題解決を自分たちのビジネスと捉え経営の軸に据えました。商号を「ウォータースタンド株式会社」に変更した2018年の頃です。

佐竹 3年前というと、ちょうどプラスチックの問題が世間で注目を集めた頃ですね。“やばいんじゃないか”って。プラスチックそのものの生産量を減らすということは気候変動とどう関わってるかを知ることも重要です。

本多 おっしゃる通りです。水筒に給水するという小さな一歩が、使い捨てプラスチックの削減や気候変動といった地球規模の課題を自分たちの手で解決できるんじゃないかという“気づき”につながるよう、小中学校に設置している「ウオー



小学校掲示パネル



中学校掲示パネル

地球規模の課題を自分たちの手で解決できるんじゃないかという“気づき” (本多)

「ウォータースタンド」には地球が抱える環境問題を伝えるポスターやパネルを掲示しています。

佐竹 映画「マイクロプラスチック・ストーリー」は、子どもたちが自分たちで話し合っ、誰も解決方法を知らないようなことを解決していく、そして行動を起こす、そういう“変革のレシピ”に

なればいいなという思いで創りました。

未来を生きる子どもたちに「会社としてこういうことができるんだ」とか「行政としてこういうこともできるんだ」、「じゃあ自分は先生になってこういうことを教えたいな」というように、問題を解決する時に色々な道があるんだってことを見せて、背中を押していく、そういうことがしたいと思って活動をしています。

“変革のレシピ”になればいいなという思いで創りました (佐竹様)

映画はプラスチック削減がテーマですが、「変革を起こすってどういうことなのか」「自分たちで集めたデータを行政に持って行って変革を起こす」というサブテーマがあるんです。

一人でも多くの方に映画を見て頂きたいという思いはもちろんありますが、行動につながることも同じように大切にしています。だから、映画を観て頂いた後に必ず座談会を行っています。映画を観ることが種まきなら、座談会は行動を起こしていくための水やりなんです。

本多 あの映画を見た結果として「こんなことが起こったよ」ってね。水筒に給水するという私たちの呼びかけも種まきの一つです。2050年という未来から見た時、小さな一歩が大きくなりのターニングポイントだったということがあると思います。

私たちは2030年までに使い捨てプラスチックボトルを30億本削減するというミッションを掲げています。弊社単独では困難な目標ですから、より多くの方にパートナーになって頂き、一緒



小さな一歩が大きくなりのターニングポイント (本多)

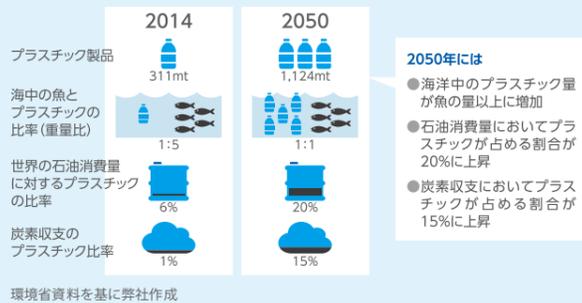
に行動して参りたいと考えています。水筒を持って行けば買い物しなくても、どこでも給水できる。そういった未来を思い描いて、小さな歩幅でもまずは一歩を踏み出すことを目指して私たちも活動を続けて参りたいと思います。

▶ 対談動画配信中

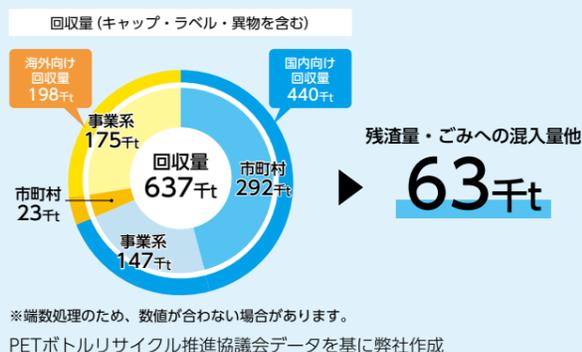
DATA

プラスチック量の拡大、石油消費量の予測

2050年までに海中のプラスチックの重量は魚の重量を超える予測されている



PETボトル回収量と残存量・ごみへの混入量



ミネラルウォーター市場規模推移



最終処分場の残存量及び残余年数の推移 (一般廃棄物)



ウォータースタンドの 価値創造プロセス

今日よりもっと、清んだミライへ

ウォータースタンド(株)は「ミッションとビジョン」のもと、より良い地球環境を未来の世代に残すため、持続可能な社会の構築に貢献します。事業を通じ、「ミッション」の達成と「ビジョン」の具現化を目指し、経営者から担当者までの全員が地球環境保護の重要性を認識し、環境方針を実践します。

重点分野

環境汚染



気候変動



資源の有効活用



本当の豊かさを感じられる社会の実現



ウォータースタンドのアプローチ SDGs ビジョン&進捗 P16



誰もがアクセスできる
水資源の活用



レンタルによる循環経
済ビジネスモデル



給水スタンド整備・水分
補給による熱中症など
の回避



ワンウェイプラスチック
削減による CO₂ 排出抑制



マイボトル普及による
プラスチックごみ削減



ウォータースタンドの
理念を実践する人財の
育成・職場環境整備



ウォーター スタンドから マイボトルへ の給水を拡大



「ボトルフ リープロジェクト」P2

ウォータースタンドの
ミッションとビジョン
動画配信中!



未来の世代

ステークホルダーとの関わり P20

個人

法人

自治体

地域社会

従業員

持続可能な事業運営

- ・継続的なアフターサービス
- ・サービス品質の維持、向上
- ・全国規模の地域密着型営業拠点網

豊かな水資源の維持

ウォータースタンドの強み P12

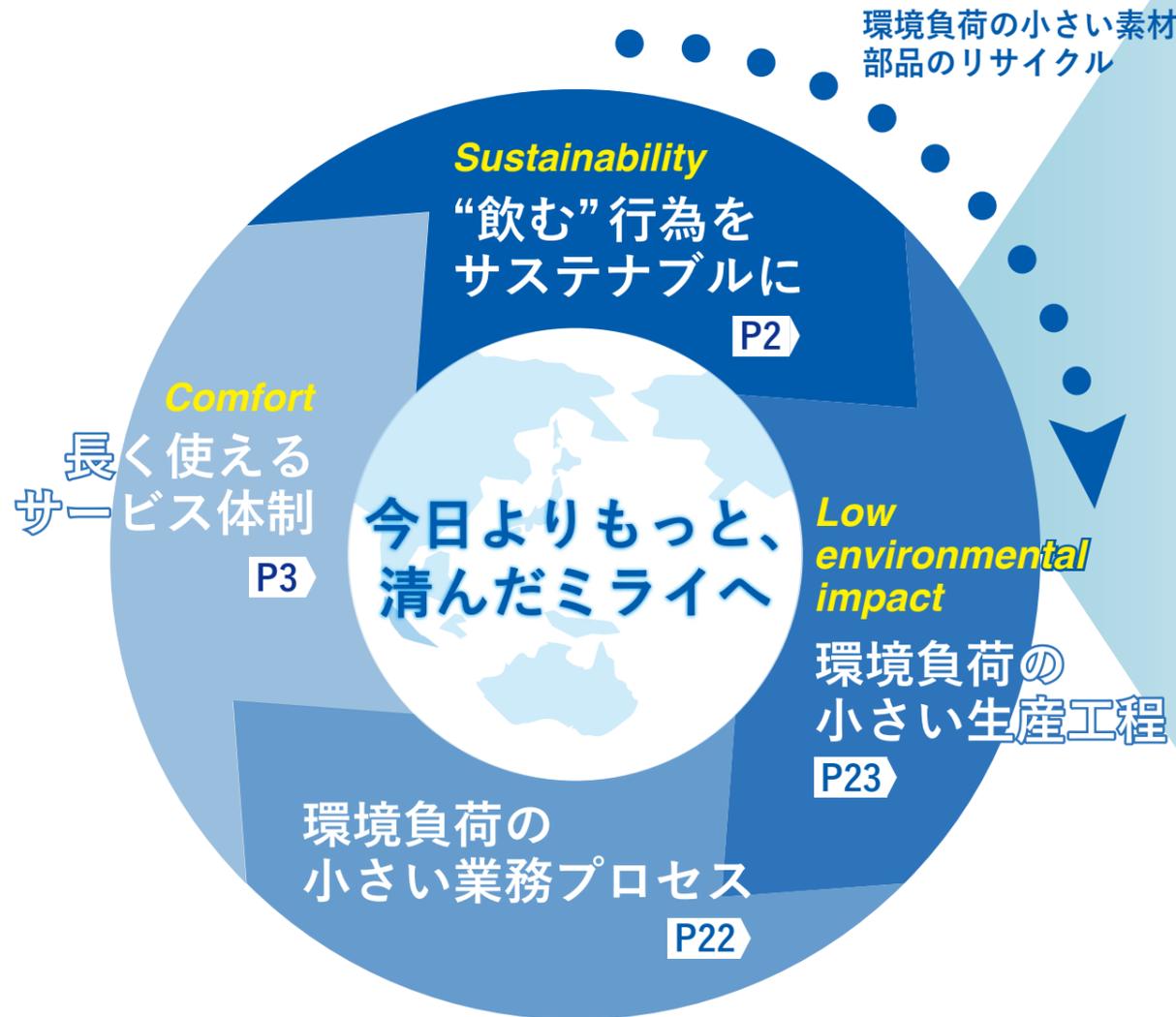
環境方針



ウォータースタンドの強み

ウォータースタンド(株)は、水道直結ウォーターサーバー「ウォータースタンド」が提供するボトル入り飲料水と同様のおいしいお水を飲むための「機能」をレンタル定額制でご利用頂いています。

私たちが目指すのは、「ごみを減らす」といったボトル入り飲料水を消費するプロセスの一部を改善することではありません。プラスチックボトルを生産、運搬、消費、回収、リサイクルするという消費のプロセス全体を見直し、作っては捨てるリニア(一方通行)型経済から、サーキュラー(循環)経済に変革していくための動きかけを目的としています。



“飲む”行為をサステナブルに フィルターの特長

商品性能

「ウォータースタンド」とは、水道直結ウォーターサーバーです。

誰もがアクセスできる水道水を活用し、サーバー本体に内蔵された高性能浄水フィルターでろ過しますので、安全でおいしいお水を飲むことができます。

JIS 17項目 + JWPAS 3項目除去で安心

JIS S 3201:2019 家庭用浄水器試験方法の対象物質17項目を除去。
JWPAS (浄水器協会) による自主規格基準の対象物質3項目も除去。

※フィルターの性能試験は、本体に記載されているすべてのフィルター(ナノろ過フィルターを含む)を使用し、実施しています。
※ウォータースタンドは鉛イオン除去性能、ジエチルアンモニア、フェノール類、ベンゼン、1,2-DCP(シス-1,2-ジクロロエチレン)及びトランス-1,2-ジクロロエチレン)、四塩化炭素のろ過能力試験を実施しておりません。



モノのサービス化

サービス・インフラ

専任スタッフによる定期メンテナンス・全国の営業拠点網

「ウォータースタンド」はお客様に“おいしいお水が使い放題”という価値を提供し、本体の所有権を弊社が保持するレンタルサービスです。弊社の専任スタッフが定期メンテナンスをさせて頂くことで長期利用が可能となり、再生機の活用、部品の再利用、環境に配慮した適切な廃棄などが可能となります。

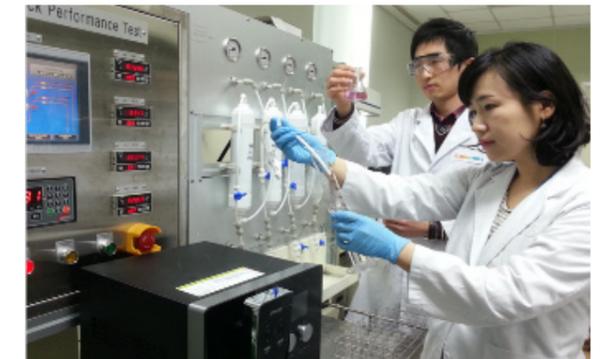


環境負荷を軽減する事業体制

強固なサプライチェーン

Coway社とのパートナーシップ

弊社は浄水器メーカー韓国Coway社の日本における独占的なパートナーです。環境技術研究所であるCoway R&D Centerでは、20名のWQA認定スペシャリスト(CWS)を含む、368名の研究チームが製品設計・開発、信頼性試験、顧客満足度調査まで徹底的に行っており、日本市場向けのコンパクトで省エネ性能に優れた機種を開発しています。



外部とのパートナーシップ事例

地方公共団体との協定締結事例や認証取得といったトピックスをもとに、ウォータースタンド(株)のこれまでの動きを振り返ります。

地方公共団体との協定締結

2019年

6月

- プラスチックごみ削減の推進に関する協定を埼玉県さいたま市と締結



さいたま市

9月

- プラスチックごみ削減の推進に関する協定を神奈川県葉山町と締結



葉山町

11月

- プラスチックごみ削減の推進に関する協定を埼玉県所沢市と締結



所沢市

2020年

1月

- マイボトル等で利用できる給水スポットの拡大に関する連携協定を京都府京都市と締結



京都市

2月

- かまくらプラごみゼロ宣言にかかる連携と協力に関する協定を神奈川県鎌倉市と締結



鎌倉市

10月

- プラスチックごみ削減の推進に関する協定を東京都世田谷区と締結



世田谷区

2021年

1月

- プラスチックごみの削減に係る連携と協力に関する協定を神奈川県小田原市と締結
- プラスチックごみ削減の推進に関する協定を群馬県館林市と締結



小田原市



館林市

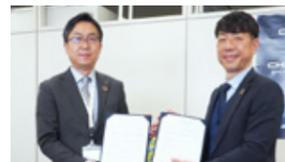
2021年

3月

- プラスチックごみ削減に関する協定を神奈川県藤沢市と締結
- プラスチックごみ削減の推進に関する協定を神奈川県川崎市と締結



藤沢市



川崎市

4月

- 使い捨てプラスチックの削減及び熱中症予防の推進に関する連携協定を大阪府吹田市と締結
- プラスチックごみ削減の推進に関する協定を兵庫県西宮市・尼崎市と締結



吹田市



尼崎市、西宮市

6月

- SDGs 達成に向けたプラスチックごみ削減に関する協定を埼玉県春日部市と締結
- マイボトル等で利用できる給水機の設置に関する連携協定を三重県志摩市と締結
- プラスチックごみ削減推進に関する協定を大阪府泉大津市と締結
- プラスチックごみ削減の推進に係る協定を東京都渋谷区と締結
- かめおか未来づくり環境パートナーシップ協定を京都府亀岡市・亀岡市教育委員会と締結



春日部市



志摩市



泉大津市



渋谷区



亀岡市、亀岡市教育委員会

アワード・取り組み紹介

2020年

12月

- 脱炭素社会実現を目指すネットワーク「気候変動イニシアティブ」へ参加
- 2021年4月、気候変動イニシアティブの日本政府に対するメッセージへの賛同を表明



2021年

1月

- 外務省「JAPAN SDGs Action Platform」に弊社の取り組みが紹介される



2月

- 農林水産省「サステナアワード 2020」ルーキー賞を受賞



2021年

7月

- 市立学校へのウォータースタンド設置に係る協定を埼玉県さいたま市教育委員会と締結



さいたま市教育委員会

8月

- プラスチックごみ削減の推進に関する協定を滋賀県日野町と締結
- ゼロカーボンシティに向けたプラスチックごみ削減に関する協定を埼玉県上尾市と締結



日野町



上尾市

9月

- 使い捨てプラスチックの使用削減の推進に関する連携協定を大阪府島本町と締結



島本町

2021年

3月

- 経済産業省関東経済産業局の「SDGsに取り組む中小企業等の先進事例の紹介」に掲載
- 埼玉県の「埼玉県環境SDGs取組宣言企業」に登録
- 国立環境研究所気候変動適応センターの「気候変動適応情報プラットフォーム (A-PLAT)」に掲載
- 「循環経済パートナーシップ (J4CE)」に経団連会員企業として参加

7月

- ウォータースタンド「ガーディアン」が「2021年度日本子育て支援大賞」を受賞



10月

- 令和3年度「リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰」リデュース・リユース・リサイクル推進協議会会長賞を受賞



- 全国の商業施設内ショールームで夏休み自由研究イベント「ウォータースタンド 森のがっこう」を開催

→お客様への約束 P21

- 西日本工業大学(福岡県)、創価大学(東京都)、神奈川県立横浜緑ヶ丘高等学校(神奈川県)、豊島区立池袋第三小学校(東京都)などで出前授業への登壇や学生とのワークショップを開催

→未来の世代への約束 P20

SDGs達成に向けた取り組み

ウォータースタンド(株)は事業を通じて持続可能な社会の実現に取り組めます。

SDGs (Sustainable Development Goals) とは



世界では環境汚染や格差問題など、全世界で取り組まなければならない多くの課題が残されています。2015年、それら様々な課題に対して、17のゴールと169のターゲットからなる国際開発目標「SDGs (持続可能な開発目標)」が国連において日本を含む世界193カ国の合意のもと採択されました。SDGsは2030年までに達成すべき目標とされ、わが国でも2016年、政府に「SDGs推進本部」が設置され、国や自治体、企業やNPO、市民、さまざまな人々を巻き込んで「SDGs」達成のための活動が始まっています。



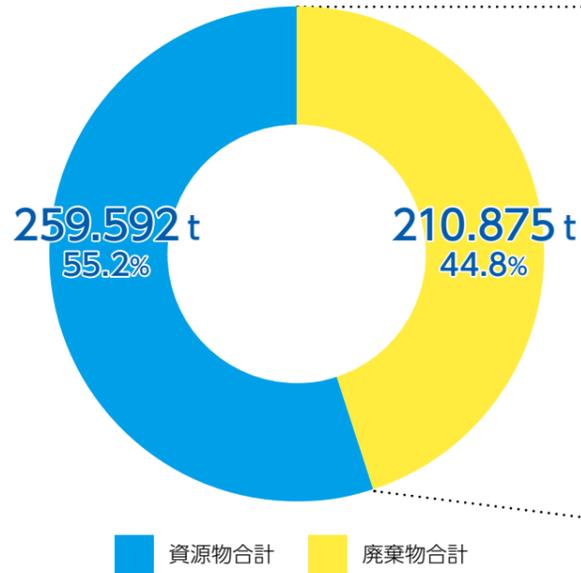
ウォータースタンドの課題認識	ウォータースタンドの取り組み	主に関連するSDGsのゴール	貢献するSDGsのターゲット
<p>消費者向け課題</p> <p>給水スタンド整備による脱水・熱中症対策 どなたでも給水できる「ウォータースタンド」を「給水スタンド」と呼称し、マイボトルに給水頂くことで使い捨てプラスチックボトル削減と熱中症などを回避するための水分補給に役立っています。</p>	<p>地方公共団体との協定締結に基づく給水スタンド</p> <p>設置台数累計 1,416台 (2021年9月末時点)</p>	<p>3 すべての人に健康と福祉を</p>	<p>1.5 3.4 3.d 6.1 6.6 11.7 11.b 12.8</p>
<p>コミュニティ社会向け課題</p> <p>水の安全性を管理する人財の育成・ダイバーシティ推進 ウォータースタンド(株)の事業は、重い荷物を運搬する必要がないためジェンダー・年齢の別なく多様な人財が活躍することが可能です。弊社のミッションとビジョンに共感する人財が力を発揮できるよう、スーパーフレックス制度など制度面の充実を図っています。</p>	<p>従業員数 647人 (パート・アルバイト含む) (2021年6月期)</p>	<p>8 働きがいも経済成長も</p>	<p>8.2 8.4 8.5 8.8 10.3 16.5</p>
<p>地球環境向け課題</p> <p>マイボトル普及によるプラスチックボトルごみの削減 2019年にスタートした「ボトルフリープロジェクト」は、何度も使える水筒やタンブラーの携帯を呼びかけ、「飲む」行為をサステナブルなものにする取り組みです。 P2</p>	<p>2030年までに使い捨てプラスチックボトル30億本を削減し、持続可能な社会を実現します。</p> <p>削減目標 30億本</p>	<p>11 住み続けられるまちづくりを</p>	<p>4.7 6.6</p>
<p>地球環境向け課題</p> <p>誰もがアクセスできる水資源の活用 地球上の飲料として利用できる淡水の割合はわずか0.01%であり、人口増加に伴い水資源は今後さらに稀少資源化することが予想されています。弊社は、誰もがアクセスできる水道水を活用し水資源枯渇の危機回避に対応します。</p>	<p>「ウォータースタンド」</p> <p>設置台数累計 10.7万台 (2021年6月期)</p>	<p>6 安全な水とトイレを世界中に</p>	<p>5.4 6.4 9.4 11.6 11.a 17.17</p>
<p>地球環境向け課題</p> <p>プラスチックボトル生産時および運搬・リサイクル時における使用資源の削減 プラスチックボトルは石油資源に由来する樹脂から製造されます。年々、軽量化やラベルレス化などにより使用資源の削減が図られていますが、限りある資源を有効に活用するためには消費プロセス全般における資源・エネルギー削減が不可欠です。</p>	<p>「ウォータースタンド」からマイボトルに給水することで、ボトル入り飲料を消費する際の環境負荷を軽減できることを積極的に呼び掛けています。</p> <p>提供本数 8.8万本 (2021年6月期)</p>	<p>12 つくる責任 つかう責任</p>	<p>12.2 12.4 12.5</p>
<p>地球環境向け課題</p> <p>プラスチックボトル製造・リサイクル時に発生するCO₂削減 500mlプラスチックボトル1本を使用した場合に排出されるCO₂はステンレス製水筒(100回使用)と比較し約8.6倍となる119gに上ると言われています。 ※出所 環境省「リユース可能な飲料容器およびマイカップ・マイボトルの使用に係る環境負荷分析について」(2011年4月)</p>	<p>提供本数 8.8万本 (2021年6月期)</p>	<p>13 気候変動に具体的な対策を</p>	<p>13.1 13.3</p>
<p>地球環境向け課題</p> <p>プラスチックボトルごみによる海洋汚染防止 2050年には海洋中のプラスチックの重量が魚の重量を超えると予測されています。 P8</p>		<p>14 海の豊かさを守ろう</p>	<p>14.1 14.2 15.1 15.2 15.4</p>

地域におけるSDGsの活動への加盟 下記パートナーシップに加盟し地域におけるSDGs達成への貢献に取り組んでいます。
地方創生SDGs 官民連携プラットフォーム(内閣府) / JAPAN SDGs Action Platform(外務省) / 埼玉県SDGs官民連携プラットフォーム / 地域創生プラットフォーム SDGsにいがた(新潟県) / おだわらSDGs/パートナー(小田原市) / かつかべSDGs/パートナーズ(春日部市) / つくばSDGs/パートナーズ(つくば市) / 名古屋市SDGs推進プラットフォーム(名古屋市) / 浜松市SDGs推進プラットフォーム

ます。(2021年6月期現在)
フォーム(埼玉県) / 埼玉県SDGsパートナー(埼玉県) / かながわSDGs/パートナー(神奈川県) / かわさきSDGsゴールドパートナー(川崎市) / 北九州SDGsクラブ(北九州市) / 静岡市SDGs宣言(静岡市) / (浜松市) / Y-SDGs 第3回スタンダード事業者(横浜市)

資源物・廃棄物集計 ※2020年4月～2021年3月

①使用済み製品の処理方法



②産業廃棄物種別内訳

プラスチック	74,841t
発泡スチロール	2,362t
金属	0.163t
木くず	13,475t
ガラス・コンクリート・陶磁器くず	0.003t
安定型混合廃棄物	114,441t
廃蛍光管	0.040t
乾電池	5,550t

※参考データ
「ウォータースタンド」とプラスチックボトルの利用における廃棄物排出量比較

「ウォータースタンド」1台あたり排出重量^{*1} **2.3kg**
 「ウォータースタンド」1台あたりプラスチックボトル削減重量^{*2} **9.6kg**
7.3kg削減 ※1台あたり年間平均

資源物対象製品	「ウォータースタンド」本体(フロン冷媒使用製品)、エコサーバーなど
産業廃棄物対象製品	「ウォータースタンド」本体(冷媒不使用)、フィルター、給水チューブ、モールカバー、梱包用発泡スチロール、運搬用木製パレットなど

「ウォータースタンド」の廃棄物削減効果

フィルターや通常での使用を終了した製品本体(以下、本体)、その他の部品類は、資源物と廃棄物に分類し処理を行っています。資源物には主に、本体やエコサーバーが含まれます。本体とエコサーバーは、細かいパーツとしてプラスチックや金属などの種類ごとに分解・分別し、リサイクル原料として売却します。フロン冷媒を使用している機種は分解作業の工程でフロン回収を行います。

その他の使用済み製品は、産業廃棄物として処理しています。発泡スチロールや木くずなどの産業廃棄物は製品原料としてリサイクル処理を行っています。安定型混合廃棄物については更に分別を推進し、リサイクル率の向上に引き続き取り組んで参ります。

※1 ①で示した廃棄物210,875tを、「ウォータースタンド」の2020年度平均登録台数(92,565台)で除算したものを。
 ※2 「ウォータースタンド」1台あたりのプラスチックボトル削減重量の算出方法
 ①日本国内での2018年度PETボトル出荷本数244億本(出典:PETボトルリサイクル推進協議会)より、日本人1人あたりの年間使用本数を193本と算出。
 ②「ウォータースタンド」1台あたりの標準使用人数を4人とし、①で算出したPETボトル全量を削減できると仮定した場合の1台あたりの削減効果を年間772本と算出。
 ③上記②に対し、555mlPETボトル1本あたりの重量を12.4g[※]に設定。
 (※PETボトルリサイクル推進協議会「PETボトルリサイクル年次報告書2020」4 Reduce リデュース 軽量化事例N社製品の重量を参照)

環境データ

弊社は、「ウォータースタンド」設置台数を基にプラスチックボトル削減本数とこれによる削減CO₂排出量を推計しています。プラスチックボトル削減本数は、「ウォータースタンド」設置台数にPETボトルリサイクル推進協議会公表の2018年度におけるボトル入り飲料出荷本数を国内総人口で除した1人あたりボトル入り飲料使用本数を乗じて算出しています。

「ウォータースタンド」からマイボトルに給水することで削減されるCO₂排出量は、環境省公表の「リユース可能な飲料容器およびマイカップ・マイボトルの使用に係る環境負荷分析」の「マイボトル(水筒)の利用に関する環境負荷分析結果」を参照し算出しています。

■「ウォータースタンド」累計設置台数6期比較



■「ウォータースタンド」累計設置台数から算出したプラスチックボトル削減本数&CO₂排出抑制量^{*6}6期比較



※CO₂排出削減推定値: ペットボトルとマイボトル(ステンレス製水筒を100回使用)のCO₂排出量の差(0.1051kg-CO₂)と削減本数の積

ウォータースタンドレポート2021用語集

ESG推進室	環境課題・社会課題に対し社内外のパートナーシップにより解決に取り組む部署として2018年に設置
ISO14001	国際標準化機構(ISO)が策定した環境マネジメントシステムの国際認証規格であり、弊社は2000年11月より取得
安定型混合廃棄物	廃プラスチック類、ゴムくず、金属くず、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類の5品目のみで構成された混合廃棄物
「ウォータースタンド」	ウォータースタンド(株)が提供する水道直結ウォーターサーバーの総称
エコサーバー	タンクに水道水を給水し使用する「ウォータースタンド」専用台
価値協創ガイダンス	経営理念やビジネスモデル等を体系的に整理しステークホルダーとの対話の質向上に寄与するため2017年5月に経済産業省が公表した手引
サーキュラー(循環)経済	有限な資源を無駄に使わず資源循環させながらとことん使い続ける経済のあり方
リニア(一方通行)経済	使用後の廃棄を前提とする旧来の経済のあり方
フィルター	「ウォータースタンド」に使用しているネオセンスフィルター、イノセンスフィルターのほか、メインフィルターとして逆浸透膜(RO:reverse osmosis)フィルターと静電吸着によるナノトラップフィルターの2種のフィルター
フロン冷媒	「ウォータースタンド」に使用されている冷媒は代替フロン(R-134a)とノンフロン(R-600a)であり、弊社は自主的な回収を実施
「ボトルフリープロジェクト」	使い捨てプラスチックボトル削減とプラスチック資源の循環を目指して行う個人・企業・地方公共団体・地域社会との連携や活動

未来の世代への約束



考え方・方針

弊社にとって最も大切なステークホルダーは「未来の世代」です。「未来の世代」のためにより良い地球環境を遺すのはもちろん、「未来の世代」とのパートナーシップにより、社会課題解決に取り組んで参ります。

出前授業・探究学習への参画

弊社は、水道直結ウォーターサーバーを取り扱う企業だからこそ伝えられる「水資源の大切さ」や「誰もが安心な水にアクセスできることの価値」、「マイボトルに給水することで自分が起点となってスタートできるSDGsへの取り組み」を出前授業や探究学習のサポートを通じてお伝えしています。本年度は、西日本工業大学（福岡県）、創価大学（東京都）、神奈川県立横浜緑ヶ丘高等学校（神奈川県）、豊島区立池袋第三小学校（東京都）などで授業への登壇や学生との交流を行いました。



豊島区立池袋第三小学校での出前授業の様子

大学での取り組み

2050年カーボン・ニュートラルの達成に向け、国や地域を変革するために大学は知見の創出・普及などで重要な使命を担っており、2021年7月には大学等間の連携を強化するため188の大学が参加する「カーボン・ニュートラル達成に貢献する大学等コアリション」が設立されました。弊社は、同プラットフォームに参加する聖心女子大学や創価大学などを始め、全国の大学の学生らとオンラインワークショップやマイボトル使用に関するアンケートなどを実施し、学生主体の環境への取り組みをサポートしています。

ウォータースタンド設置大学事例

医療創生大学、宇都宮共和大学、日本大学、京都大学、千葉明德短期大学、東京大学大学院、東京農工大学、東北大学、二松学舎大学、立命館大学、東京薬科大学、創価大学、兵庫県立淡路景観園芸学校、高崎商科大学、青山学院大学、共愛学園前橋国際大学、長野県立大学、小田原短期大学、神田外語大学、聖心女子大学、日本工業大学、武蔵野大学



東京薬科大学のマイボトルデザインコンテスト受賞作品



東京薬科大学マイボトルデザイン表彰式

お客様への約束



考え方・方針

弊社は1969年の創業以来、弊社を選んで頂くことがお客様にとってのメリットとなり更に環境負荷軽減にもつながるような商品・サービスをご提案し、お客様とのパートナーシップを構築して参りました。

SDGs私募債を通じたNPO法人への寄付

弊社は、事業運営上のあらゆる意思決定がSDGs（持続可能な開発目標）達成に貢献することを重視しています。本年度はSDGs達成への取り組みを評価頂き、武蔵野銀行が取り扱う「むさしのSDGs私募債『みらいのちから』」により5億円の資金調達を実施しました。同私募債は、武蔵野銀行が受け取られる手数料の一部で特定公益法人・一般法人・NPO法人等に物品寄贈や金銭寄付を行うもので、弊社はNPO法人フードバンクネット西埼玉へ寄付させて頂きました。



夏休み自由研究イベント「ウォータースタンド 森のがっこう」の開催

商業施設内の弊社ショールームで小学校低学年対象の夏休み自由研究イベント「ウォータースタンド森のがっこう」を開催いたしました。アサヒビール株式会社とパナソニック株式会社が共同開発した飲料容器「森のタンブラー」を活用した「絵をかこう！森のタンブラー」をはじめ、「色が変わる?!ハーブティー」、「あそんで学ぼう！SDGsすごろく」といったイベントを実施しました。リユース可能な容器を使用することの意義やお水の性質、身近なSDGsへの取り組みについて、子どもたちを楽しみながら考えて頂く場を提供しました。



SNSによる発信回数 (2021年6月期)



従業員への約束



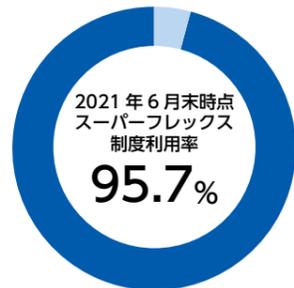
考え方・方針

弊社は、従業員一人ひとりが事業を通じて社会課題解決に取り組む喜びを感じながら働くことができる場を創出していきます。このことにより、弊社自身が持続的に成長しながら持続可能な社会の実現に貢献して参ります。

多様な働き方の推奨と快適な職場環境の形成

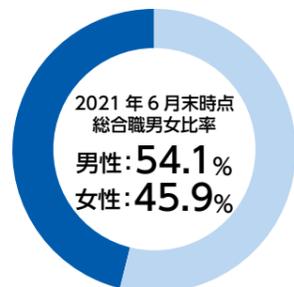
弊社は2013年から「埼玉県多様な働き方実践ゴールド企業」として女性の活躍支援を継続し、従来から雇用形態に関わらず、同一労働同一賃金に基づく対応を行っています。2021年4月からは、多様な働き方を推奨するため全社員がスーパーフレックス制度を選択できるよう労務制度改革を実施しました。

また、職場における安全と従業員の健康を確保するため、安全衛生委員会を開催し労使一体となり快適な職場環境の形成に取り組んでいます。



「エコサイクル手当」制度導入後の進捗状況

2020年5月から自転車の利用を促進しCO₂排出量を削減することを目的としてエコサイクル手当を導入しました。現在は長距離の移動が依然として生じることがあり、自転車の利用だけでなくカーシェアリングサービスなども積極的に利用しています。地域密着型の拠点展開によって移動距離の短縮化が図られ、移動手段を柔軟に選択することが可能となり、環境に配慮した業務運営を行うことができます。



ステークホルダーとのパートナーシップ

サプライチェーンはサーキュラー（循環）経済ビジネスモデルを支える重要な要素です。ウォータースタンド（株）のサプライヤーである韓国Coway社は2006年に環境経営を宣言し生産工程における環境負荷を軽減する取り組みを継続しています。



Coway社について

- 売上高 **3兆2,374億ウォン** (2020年12月期)
- 従業員 **6,571名** (2020年12月期)
- 「DJSI World」構成銘柄に **5年連続**で選定
- 環境配慮商品売上 **8,002億ウォン** (2020年12月期)

Coway社の水道直結ウォーターサーバーについて

<p>浄水性能</p>	<p>国際的な浄水性能認証機関であるNSF International及びANSI（アメリカ規格協会）に承認された、米国の飲用水関連機器市場において信頼性のある認証マークであるWQA（Water Quality Association）ゴールドシールを獲得しています。</p>	
<p>安全性能</p>	<p>11の認定ラボを運営し国内外の安全性の動向や認証規制に迅速に対応しています。ノルウェーの安全試験所であるNorges Elektriske Materielkontroll（NEMKO）と提携し、欧州市場における電気・電子製品のENECやCBなどの安全認証を取得しています。</p>	
<p>環境性能</p>	<p>2020年から温水・冷水機のエネルギー効率向上プログラムを韓国建設生活環境試験研究院（KCL）と共同で開発する国家プロジェクトを実施、2021年3月に世界で初めてプログラムの開発に成功しました。</p>	

会社概要

商号	ウォータースタンド株式会社	資本金	5,000万円 (2021年6月期)
設立	1969年3月	売上金	88億5,719万円 (2021年6月期)
本社所在地	埼玉県さいたま市大宮区桜木町4-463	従業員数	647名 (パート・アルバイト含む) 社員数 371名 (2021年6月期)

代表取締役	本多 均
取締役	近藤 紀行
取締役	金 昌勲
監査役	永関 恵子
監査役	紺田 和弘



ISO14001 認証取得
ISAE429 本社

取引銀行	埼玉りそな銀行 (与野支店) 三菱UFJ銀行 (大宮支店・大宮駅前支店) みずほ銀行 (大宮支店) 武蔵野銀行 (本店) 他
取引顧客	官公庁・公共施設・各種企業・大規模小売店・商店などの法人、および個人宅 計約100,000件
主要取引先	Coway株式会社 大林通商株式会社 シャープ株式会社 三菱倉庫株式会社 みずほリース株式会社 三井住友ファイナンス&リース株式会社

沿革

1969年3月	資本金200万円にて株式会社サニクリーン大宮 (旧社名) 設立 サニクリーン東京のフランチャイジーとしてダストコントロール事業を開始
1986年8月	アメニティ (環境快適化) 商品の第一弾として空気清浄機のレンタルを開始以降、アメニティ商品の拡充を図る
1995年1月	営業地域の拡大により商号を「株式会社サニクリーンジャスト」に変更する
1996年10月	「株式会社ジャスト」に商号を変更し、事業領域を拡大する
1998年6月	サニクリーン本部フランチャイズを離脱
1998年7月	リユーストナー事業開始
2000年9月	オフィス通販事業開始
2000年11月	加須工場、加須支店にてISO14001を認証取得
2004年11月	本社、さいたま支店にてISO14001を認証取得
2005年7月	宅配水事業 (ボトルウォーター) 開始
2011年4月	新本社 (さいたま市大宮区桜木町4-463) 完成
2012年2月	Coway株式会社 (韓国) と業務提携し、浄水器事業を拡大
2013年8月	Coway株式会社 (韓国) から日本コーウェイの事業を譲受
2018年7月	ブランド名との統一を目的とし、商号を「ウォータースタンド株式会社」に変更する
2019年6月	ボトルフリープロジェクト開始
2020年8月	京都市山科区に「山科ショールーム」をオープン
2020年9月	千葉県柏市に「ららぽーと柏の葉ショールーム」オープン
2021年6月	使い捨てプラスチック削減とCO ₂ 排出量抑制を目的とし宅配水事業を譲渡 全国の営業所数が59カ所*となる ※短期開設ショールームを除く

加盟団体・支援

環境	脱炭素戦略「かわさきカーボンゼロチャレンジ 2050」 東京都チームもったいない エコ活動ネットワーク 足立 EANA (いーな) 埼玉県森林づくり 海と日本 PROJECT 循環経済パートナーシップ (J4CE) みやぎスマイルビーチ・プログラム
経済	一般社団法人日本経済団体連合会 埼玉県経営者協会
プラスチック循環推進	おおさかプラスチックごみゼロ宣言 かながわプラごみゼロ宣言 プラスチック・スマート・フォーラム CLOMA (クリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンス) 埼玉県プラスチック資源の持続可能な利 用促進プラットフォーム
マイボトル推進	ちばマイボトルエコ 名古屋市マイボトル・マイカップ運動 横浜マイボトルスポット おおさかマイボトル パートナーズ 福島県マイボトル・マイカップ推進キャンペーン
気候変動	COOL CHOICE 気候変動イニシアティブ (Japan Climate Initiative; JCI) 熱中症予防声かけプロジェクト
海外支援	CIESEF プラチナサポーター
地域貢献	子育て応援パスポート (全国) 彩の国ロードサポート さいたまロードサポート さいたま子ども安全協定 みやぎスマイルビーチ・プログラム
スポーツ支援	T.T 彩たま 大宮アルディージャ

Web

Webサイト

企業情報サイト
企業情報について
waterstand.co.jp



サービスサイト
製品・サービスについて
waterstand.jp



SNS

ウォータースタンド公式
Facebook
[@waterstand.jp](https://www.facebook.com/waterstand.jp)

ウォータースタンド公式
Twitter
[@waterstand_pr](https://twitter.com/waterstand_pr)

ウォータースタンド公式
Instagram
[@waterstand.jp](https://www.instagram.com/waterstand.jp)

ウォータースタンド公式
YouTube チャンネル

当レポートの報告対象期間は2020年7月1日～2021年6月30日ですが、一部に2020年6月以前・2021年7月以降の活動内容等を含みます。また、廃棄物に関するデータは2020年4月1日～2021年3月31日を報告期間としています。



本レポートの制作にあたり、下記の企業に多大なご協力を頂きました。ここに感謝申し上げます。

企画・制作 株式会社大川印刷 アドバイザー 柏原総合環境会計事務所
ご協力 アサヒユウアス株式会社